

横浜開港資料館 令和元年度第 3 回企画展示
横浜市中消防署 100 周年記念
横浜の大火と消防の近代史



日本初のガソリンポンプ消防自動車「メリーウェザー号」大正期 増田平氏蔵
1914(大正 3)年に薩摩町消防組(旧居留地消防隊)が導入した消防自動車。

1. 展示会期など

会 期: 令和元年 11 月 2 日(土)~令和 2 年 1 月 26 日(日)

会 場: 横浜開港資料館 新館 企画展示室

開館時間: 9:30~17:00(入館は 16:30 まで)

11 月 22 日(金)、12 月 20 日(金)は、展示室のみ 19:00 まで開館(入館は 18:30 まで)

入 館 料: 一般 200 円、小中学生 100 円

休 館 日: 月曜日(但し祝日の場合は開館し、翌日休館)、12 月 28 日(土)~1 月 3 日(金)

主 催: 横浜開港資料館

共 催: 横浜市教育委員会

後 援: 横浜市消防局、中消防署開設 100 周年記念事業実行委員会、朝日新聞横浜総局、
神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、毎日新聞社横浜支局、
読売新聞横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk

2. 展示趣旨

安政 6(1859)年の開港以降、火災を克服するため、横浜に暮らす人びとは試行錯誤を重ねながら防火体制を整えていきます。そして災害とむきあう「消防」は都市横浜に不可欠な存在となっていきました。本展示では、開港直後の町火消から戦後の自治体消防に至る横浜消防のあゆみをたどっていきます。

3. 展示構成

横浜開港と町火消の登場/慶応の大火/居留地消防隊/消防組織の整備と葛藤/居留地撤廃と雲井町大火/消防署の誕生/関東大震災/消防組織の拡充/戦争と消防/横浜大空襲/消火技術の変遷/外国人が描いた消防/横浜消防の群像/横浜消防史の継承

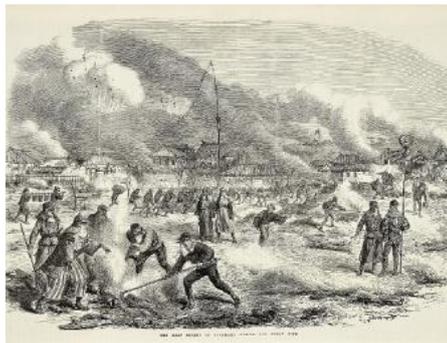
4. おもな展示資料、みどころ（全展示数 約 100 点）

・増田万吉が率いた居留地消防隊の日本人部隊・「商組」幕末



纏や鳶口、龍吐水(和製の手動式ポンプ)など、町火消の装備がわかる。増田万吉は石橋六之助とともに横浜消防の基礎を築いた人物で、外国人から最新の消火方法を学び、横浜の地で実践していった。

・慶応の大火『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』1867年2月9日 当館蔵



1866年11月26日(慶応2年10月20日)に発生した火災の様子を描いている。作者は画家のチャールズ・ワグマン。この大火を契機に、横浜公園や日本大通りが誕生した。

5. 展示関連事業

展示担当者による展示関連講座「横浜消防の近代史」

第1回 12月7日(土)「消防署の誕生—横浜開港から関東大震災まで—」

第2回 1月12日(日)「空襲との闘い—戦時体制下の横浜消防—」

時間:各回 13:30~14:30 会場:当館講堂 受講料:各回 200円 定員:当日先着 80名

展示担当者による展示解説

11月9日(土)13:30~、11月22日(金)18:00~、12月20日(金)18:00~、1月5日(日)13:30~
各回 30分程度で、事前申込不要です。入館券をお持ちの上、企画展示室入口にお集まりください。

展示図録『横浜の大火と消防の近代史』の販売

B5判、120頁、1,000円+税(予価)

展示関連 中消防署開設 100 周年記念イベント

・中消防署 100th Anniversary 大感謝祭—未来に託す防災の絆—

災害対応車両の展示、防災、救急イベントをおこないます。

日時:11月9日(土)10:00~15:00

会場:神奈川県庁前路上(横浜市中区日本大通1付近)

・《中消防署開設 100 周年記念》中区防災減災講演会

「戦前における消防の発展と横浜」 鈴木 淳(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

日時:11月30日(土)14:30~16:30 会場:横浜市開港記念会館(横浜市中区本町1-6)

参加費:無料 定員:300名(当日先着順、定員になり次第締め切り)

お問い合わせ先:横浜市中消防署 045-251-0119

お問い合わせ先			
横浜開港資料館	展示担当	吉田 律人	TEL 045-201-2169
	館長	西川 武臣	TEL 045-201-2100

* 画像データをご要望の場合は、広報へご連絡ください。